

## 職員による自己評価

A環境面

運動の内容次第で、室内スペースに狭さを感じる時はある。

B児童への支援内容

SST はもとより、令和 3 年度より運動プログラムを取り入れ、運動→学習という場面切替が浸透してきている。

C関係機関との連携

計画見直し時期や児童併用先の事業所との連携をとっている。

D保護者への説明責任・信頼関係

毎月一回、通信として書面での情報発信に加え、毎週 活動内容の報告を書面にて発信。

また、お迎え時に保護者への共有を行っている。

E非常対応

半年ごとの避難訓練週間、緩降機での避難練習。

## 保護者による評価

A環境面

・気にしたことがないのでわからない  
・建物の構造上、仕方がないと思うが、階段の出入りがフリーになっているので子供には危ないと思う。

B児童への支援内容

・他児童との交流の場は望んでいない。  
・通所することをとても楽しみにしている。  
・デジタルに関する対応をしてほしい

C事業所からの情報発信

・最近は報告方法がより良くなった。  
・週間日程の通知があるとよりわかりやすい。

D非常対応

・きちんとしてると思うが説明は受けていない

## 事業所内での分析

**【共通点】**

支援内容や取り組み等に対して、口頭説明・書面・ブログを通じてご理解いただけていると考えているが、さらに違ったアプローチも求められていると感じており、事業所側もそれに呼応したい思いもあることから共通していると認識している。

**【相違点】**

週次報告や月次通信などで情報共有として行えていると考えていたが、非常対応などの部分に説明不足が生じていることが把握できた。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

これまでの”肯定”と”自主性”を重視した支援による児童からの安心感と、新たな支援内容を追加した事での児童のさらなる成長を感じていただけていると自負している。令和4年からは中高生の就労に向けたトレーニングの「中高生講座」を開始するなどの、新たなプログラムにも取り組んでおり、期待していただけていると感じる事ができている。

### 事業所の改善点

運動プログラムを導入したことで、より安全面の強化を図っていく。それと同時に、すべてのご利用児童で取り組みにバラつきが生じないように、さらなる工夫も必要である。慢心することなく、SST・運動プログラムの両側面から都度の改善項目を探求しなければならない。

### 事業所の改善への取り組み

これまでも行ってきた日々の朝礼・昼礼・終礼や、毎月2回開催している職員会議での職員間の細やかな情報共有の機会をベースにしつつ、よりStepUPできるよう、職員同士で厳しい指摘を行っていく。

適宜、保護者 / 児童からの満足度やご意見のヒヤリングを行い、現時点での立ち位置を確認しながら、さらなる高みを目指していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

StepUP 蒔田通町教室となつてからの新たな取り組みの初年度としては、ご利用者からは概ね肯定的なご意見をいただけていると感じています。しかしアンケートでは忌憚ないお言葉も頂戴したこともあり、貴重なご意見として真摯に受け止めて、児童のために絶えずPDCAを行って参ります。

事業所名 StepUP 蒔田通町教室

担当者 管理者 小野 隆